

[004]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://doi.org/10.15017/25300>

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース．4，pp.1-6，2005-03．九州大学総合研究博物館
バージョン：
権利関係：





九州大学総合研究 博物館ニュース

March 2005 No.4

九州大学総合研究博物館の改組に向けて

九州大学総合研究博物館 館長 村江 達士

九州大学総合研究博物館では、平成12年4月の設置当初から、学内に散在する標本・資料の一元管理と研究成果の市民社会への還元を主任務として、膨大な数の各種標本・資料のデータベース化及び各種公開展示に取り組んで参りました。その成果は「九州大学総合研究博物館自己点検・評価報告書」に纏めて記載されておりますが、ごく最近の活動としては、昨年末から新年にかけて、福岡市立博物館において公開展示「倭人伝の道と北部九州の古代文化」を行い、また本年の夏には福岡市立少年科学文化会館において公開展示「九州大学の所蔵標本・資料」を行う予定で準備を進めています。これらの活動は市当局をはじめとした地域社会の理解と協力があって初めて成り立つものです。

当博物館では、平成14年11月に多くの学外からの関係者を加えた専門委員会「新しい大学博物館を考える会」を発足させ、九州大学総合研究博物館の将来計画を検討して頂き、平成15年4月に提言を得ました。その提言の中では、これからの大学博物館の果たすべき役割として、学外組織と連携した小中学生の学習支援や生涯学習の支援等の社会貢献が強く要請されました。また、九州大学でも、平成16年度からの法人化に際して、社会連携・地域貢献を中期目標の中に掲げました。さらに、文科省も平成15年度の博物館関連告示において、今後の公立博物館の果たすべき主な役割の一つに、地域社会と連携

した小中学生の学習支援や生涯学習の支援を挙げています。このように、国立大学の法人化と相前後して、大学博物館に要求される機能が急速に拡大してきています。

当博物館におきましても、その設置目的の中に地域社会への貢献を掲げ、幾つかの活動を通じて実績を重ねてきたところであります。しかしながら、現在の当博物館の組織は、地域社会と連携して活動をより一層効果的に行うには、必ずしも適した状態には有りません。そこで、このたび当博物館の改組を検討することに致しました。この改組に当たっては、当博物館が従来から果たしてきた機能を引き継ぐ部署として、研究部を設けるとともに、地域社会と連携して、小中学生の学習支援や生涯学習の支援、その他市民社会への貢献事業を効果的に行うための部署として、事業部を新たに設けることを予定しています。

新設の事業部におきましては、国立大学の法人化の利点を生かし、学外に関連団体から広く人材の参加を仰ぎ、地域社会文化の発展に寄与するためのニーズを的確に把握し、それに対する対応策を検討し、その結果を実践的に検証してゆく予定です。この改組の目的を達成するには、学内外の関係者の幅広い密接な連携が必要不可欠となりますので、多くの方々にご理解とご協力をお願いする次第です。

九州大学所蔵標本紹介(2)

九州大学の考古資料

比較社会文化研究院助教授 溝口 孝司

九州大学の考古学は、昭和33（1958）年、文学部に考古学研究室が創設される以前から、九州地方を中心としつつ、広く東アジアを視野におさめた研究を、学会の中心となって推進してきました。今日にいたるまでの間、九州地方を中心とする発掘調査等を通じて九州大学に収蔵されることとなった考古資料は相当な量におよび、その中には重要文化財に指定されたものや学史上貴重なものとして見学・展示貸し出し依頼の絶えないものなど、とても貴重な資料も多くふくまれています。それらの中で、このたびは、「旧玉泉館（ぎょくせんかん）収蔵考古資料」についてご紹介いたします。

本資料は現在、六本松地区図書館に収蔵され、その一部は閲覧ロビー等のガラスケースに常時展示されています。玉泉館は、かつて現在の六本松キャンパスの地にあった旧制福岡高等学校歴史地理資料室として創設され、その後旧九州大学教養部に移管されたものです。この資料をかつて収蔵していた「玉泉館」は、現在の六本松キャンパス本館と1号館の間の駐輪場あたりにあった小さなコンクリート建物でしたが、これは、旧制福岡高校教授玉泉大梁（たまいずみ たいりょう）氏が実物資料の学習を中心にすえた歴史・地理教育の必要を感じて、大正11（1922）年の同校開校と同時に蒐集を開始した資料

をもとにして、文部省より予算を得て昭和5（1930）年に開設した歴史地理資料室だったのです。その後、この施設は玉泉教授の業績を顕彰して玉泉館（ぎょくせんかん）と呼ばれることとなり、その後、新制大学制度の施行とともに昭和24（1949）年に九州大学第1分校（その後の教養部）へと移管され、以来昭和62（1987）年の、講義棟（新館）増築に伴う解体まで、史・資料展示収蔵施設として機能していました。

玉泉館の解体にともなう資料の整理と移転作業は図書館六本松分館・当時の文学部美学教室・考古学教室によっておこなわれ、この機会にカード化・データベース化された資料は新たに図書館地上階に3部屋にわけて収蔵されることとなったのです。その後、比較社会文化研究科（当時）基層構造講座では、1996年に、今後の活用の便に供するために、このデータベースを項目等の整理によって圧縮し、表にまとめたものを刊行しました（九州大学『九州文化史研究所紀要』第40号所収「九州大学旧玉泉館収蔵考古資料（1）」）。

資料は旧石器から縄文時代、弥生時代、古墳時代をへて、歴史時代の遺物などに加えて、珍しいものとしては諸外国の貨幣や台湾の民俗資料等も含んでいます。なかでも弥生時代、古墳時代、歴史時代の



玉泉館資料展示風景：九州大学附属図書館六本松分館2階閲覧室



金環・銀環・玉環：古墳時代の遺跡から出土した遺物、上段右端は大分県、その他は福岡県出土



弥生時代祭祀土器：医学部教授中山平次郎博士によって
大正9年頃筑紫野市永岡遺跡から発掘された土器群

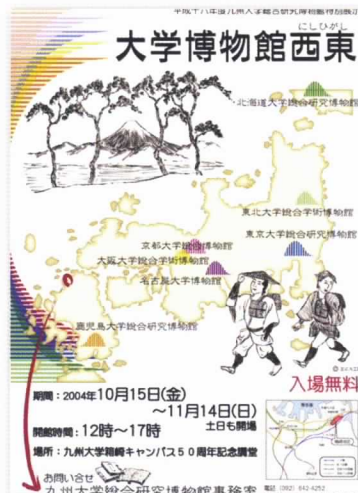
資料には貴重なものが多く、九州大学医学部教授であり、同時に九州考古学、また草創期の弥生時代の研究に大きな足跡を残した中山平二郎氏が、八女市岩崎で採集した炭化米（弥生時代が稲作の時代であったことを立証することとなった初期の資料）や福岡市今山で採集した石斧未成品（弥生時代の生産と流通研究の開始のきっかけとなった資料）、筑紫君磐井の墓と推定される八女市岩戸山古墳出土の埴輪や土師器（古墳がつくられた年代が推定できるため、古墳時代の実年代を推定するために欠かせない資料である）、福岡城跡出土鴻瀬館関係資料などは、研究者の見学や博物館や出版社からの問い合わせも多い遺物です。

移転時の整理・データベース化、またその後の整備のおかげで、どの資料がどこにあるのかがすぐわかるようになってきていることも、資料の公開の観点か

ら好ましい状況といえるでしょう。総合研究博物館開館の時には、人文科学研究院考古学研究室所蔵の、これまた多量の貴重な考古資料とともに、研究の進展や教育、また一般市民への公開を通じてますますその重要性が認識されてゆくものと思います。



玉泉館資料収蔵風景：九州大学附属図書館六本松分館地階収蔵室





活動状況(展示・講演会関係)

公開展示・特別展示

平成 16 年 5 月 10 日～6 月 11 日

「九州大学教育・研究の最前線－第 3 回 P&P 研究成果一般公開－」を九州大学 50 周年記念講堂で開催しました。

平成 16 年 10 月 15 日～11 月 14 日

特別展示「大学博物館西東」を九州大学 50 周年記念講堂で開催しました。また、同時開催として、九州大学所蔵標本・資料展も行われました。

平成 16 年 12 月 17 日～平成 17 年 1 月 30 日

公開展示「倭人伝の道と北部九州の古代文化 - 九州大学所蔵考古資料展」を福岡市博物館で開催しました。

サテライト展示

福岡空港第 1 ターミナル 2 階待合室

平成 15 年 12 月 25 日～平成 17 年 1 月 31 日

「九州の地下資源 (2)」として、地熱を取り上げました。

平成 17 年 2 月 1 日～

「川と海の生命展 (1)」として、川の生命の展示を開始しました。

九州大学病院新病棟 2 階 (新設)

平成 15 年 10 月 16 日～平成 16 年 2 月 28 日

公開展示「植物をもっと知ろう - 植物と人 -」の一部を展示しました。

前原市伊都文化会館 (新設)

平成 16 年 1 月 21 日～平成 17 年 2 月 18 日

「絶滅の危機に瀕する野生生物たち」(陸・淡水産貝類編)を展示しました。

平成 17 年 2 月 19 日～

「九州の地下資源 (1)」として、金の展示をしています。

講演会、セミナー等

平成 16 年 2 月 14 日

2003 年度の公開講演会を「地球外物質に太陽系の起原を求めて」というテーマで、九州大学 50 周年記念講堂にて開催しました。講師および、講演タイトルは以下の通りです。なお当日は、「はやぶさ」探査機の模型や南極で採取された火星隕石の展示も行われました。

・「地球外物質からわかる太陽系の歴史」(中村智樹 九州大学助教授)

・「南極に隕石を求めて」(今栄直也 国立極地研究所)

・「はやぶさ探査機による小惑星サンプルリターン計画」

(藤原 顯 宇宙科学研究本部)

・「太陽系の歴史を刻む時計」(寺田健太郎 広島大学助手)

・「地球外物質に見る生命の起原」(村江達士 九州大学教授)

平成 16 年 3 月 27 日～28 日

九大・糸島会との共催で、平成 15 年度の地域資源再発見塾を前原市伊都文化会館にて開催し、1 日目は「地域のための大学博物館講座」、2 日目は「植物の不思議発見」というテーマで、以下のような講演、実習を行いました。

・「空を学ぼうーオーロラと宇宙天気ー」

(湯本清文 九州大学宙空環境研究センター教授)

・「陸にすむ貝を探そう」(松隈明彦 九州大学総合研究博物館教授)

・「糸島のレッドデータ植物」(平野照美 糸島植物研究会)

・「植物観察の基礎」(三島美佐子 九州大学総合研究博物館助手)

・「植物細密画入門」佐藤眞由美 前原市在住植物画家)

平成 16 年 7 月 27 日

第 1 回博物館セミナーを九州大学 21 世紀交流プラザ II にて開催しました。テーマは「標本歴史学：金平コレクション」で、講演タイトル、および演者は以下の通りです (世話人：三島美佐子)。

・「九大所蔵の植物標本ー移転と展示にむけてー」

(三島美佐子 九州大学総合研究博物館)

・「蘭領ニューギニアと金平亮三ー植物採集のフィールド探訪録ー」

(川合信司)



平成 16 年 8 月 29 日

九大・糸島会との共催で、平成 16 年度 1 回目の地域資源再発見塾を前原市役所にて開催し、九州大学教務課の川添昭典氏を講師として「南極生活おしえますー南極の自然と観測隊体験講演会ー」というタイトルで講演会を行いました。

平成 16 年 10 月 3 日

九大・糸島会との共催で、平成 16 年度 2 回目の地域資源再発見塾を九大新キャンパスならびに志摩町役場にて開催し、総合研究博物館の小島弘昭氏を講師として、「林冠の昆虫をしらべるー 体験！昆虫研究者の仕事」というテーマで、野外調査見学と標本実習を行いました。

平成 16 年 10 月 26 日

第 2 回博物館セミナーを九州大学 21 世紀交流プラザ II にて開催しました。テーマは「マメゾウムシの自然史ー系統とマメとの共進化」で、講演タイトル、および演者は以下の通りです（世話人：小島弘昭）。

- ・「新大陸産マメゾウムシ科昆虫と寄主植物に関する共種分化解析」
加藤 俊英（東京大学大学院総合文化研究科・院生）
- ・「旧大陸産マメゾウムシ亜科の寄主転換の歴史と新大陸産の種との関係について」津田みどり（九州大学大学院農学研究院・助手）

平成 16 年 12 月 11 ～ 12 日

総合研究博物館が後援で、「熱帯アジアの昆虫インベントリー」に関する国際シンポジウムを九州大学国際交流プラザ（西新）にて開催しました。

平成 16 年 12 月 18 日

福岡市博物館で開催した考古学関係の公開展示にあわせ、同博物館において講演会を行いました。講演タイトルと演者は以下の通りです。

- ・「九州大学考古学研究室と東アジア考古学」
（宮本一夫 九州大学大学院人文科学研究院教授）
- ・「先学の遺跡調査に見る九州考古学の展開」
（小田 富士雄 福岡大学名誉教授）

平成 17 年 2 月 19 日

九大・糸島会との共催で、平成 16 年度 3 回目の地域資源再発見塾を前原市伊都文化会館にて開催し、九州大学大学院農学研究院の大賀祥治氏を講師として、「キノコのおはなし」というテーマで講演会を開催しました。参加者は小学生から老人まで約 140 名と大盛況でした。

平成 17 年 2 月 19 日

九州大学工学部エネルギー科学科との共催で、アクロス福岡にて、「九州大学工学部エネルギー科学科・卒業研究発表一般公開ーエネルギー科学研究フォーラム 2005」を開催しました。

2005 年 3 月 19 日

2004 年度の公開講演会を「日本の動植物相はどのようにしてできたか」というテーマで、九州大学 50 周年記念講堂にて開催しました。講師および、講演タイトルは以下の通りです。

- ・「昆虫相のおいたちと特徴」
（森本桂 九州大学名誉教授）
- ・「化石からみた海生貝類相のおいたち」
（天野和孝 上越教育大学助教授）
- ・「木材化石から見る日本の被子植物相の一億年の歴史」
（鈴木三男 東北大学総合学術博物館長）

活動状況(その他)

インターネットミュージアム

公開展示や特別展示等で行った以下の展示内容を
総合研究博物館のホームページ

(<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>) から公開し
ました。

平成 16 年 2 月 12 日

「川と海の生命展—川と海のめぐみと私たち」(第 4 回
公開展示)

平成 17 年 6 月 28 日

「九州大学教育・研究の最前線—第 2 回 P&P 研究成
果—」(第 7 回特別展示)

平成 17 年 2 月 14 日

「大学博物館西東」(第 8 回特別展示)

その他

平成 16 年 3 月 31 日

九州大学総合研究博物館紀要第 2 号、および年報第
1 号を発行しました。

平成 16 年 4 月 1 日

湯川淳一館長が退官し、城戸義典専門職員が工学部
へ転出しました。新たに村江達士館長、都築健二専
門職員が着任しました。

平成 16 年 6 月 22 日

平成 16 年度(第 11 回)全国博物館長会議が一橋記
念講堂で開催され、村江達士館長が出席しました。

平成 16 年 7 月 21 日

九州国立博物館見学。



館 長
村江 達士



専門職員
都築 健二

平成 16 年 8 月 9 日

博物館専任教員と協力研究員との懇談会を開催し、
杉岡前総長を招待しました。

平成 16 年 10 月 28 日

東京農工大学で第 7 回国立大学博物館等協議会が開
催され、村江達士館長と、松隈明彦副館長、都築健
二専門職員が参加しました。

平成 16 年 11 月 29 日

福岡市九大移転対策部等の博物館見学会を開催しま
した。

平成 17 年 1 月 21 日

博物館ロゴマークが決定
しました。

平成 17 年 2 月 24 日

文部科学省による学術振
興に係る実態調査が行われました。

平成 17 年 3 月 31 日

九州大学総合研究博物館自己点検・評価報告書
(平成 12～16 年度)を発行。



ロゴマーク

会議記録

運営委員会：平成 16 年 2 月 2 日(書面)、3 月 2 日
(第 11 回)、4 月 30 日(第 12 回)、6 月 10 日(書面)、
8 月 11 日(書面)、9 月 30 日(第 13 回)、11 月 8 日
(書面)、12 月 14 日(第 14 回)、12 月 21 日(書面)；
平成 17 年 3 月 16 日(第 15 回)、3 月 29 日(書面)

資料部主任会議：平成 16 年 7 月 22 日(第 3 回)
博物館自己点検評価専門委員会：平成 17 年 1 月 12 日
(第 1 回)、2 月 2 日(第 2 回)、3 月 10 日(第 3 回)、
3 月 16 日(第 4 回)

九州大学総合研究博物館ニュース

The Kyushu University Museum News

No.4, March 2005

発行:九州大学総合研究博物館 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
TEL&FAX 092-642-4252 ホームページ <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>
印刷:城島印刷 有限会社 〒810-0012 福岡市中央区白金2-9-6
TEL092-531-7102 FAX092-524-4411